

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>(1)北越鉄道および信越線の歴史 (2)頸城野と頸城鉄道 (3)鐵道敷設法と北越南線・北線</p>	<p>鐵道関連法規から見た明治・大正期の私設鐵道の諸問題と鐵道国有化の問題とを、頸城野の歴史的状況を踏まえて研究した。</p>	<p>平成 28 年 1 月 23 日に NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第一一期(町屋交流館・高田小町)において、「鐵道敷設法と幻の鐵道」と題して講義をおこなった。</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>・ 2014 年度科学研究費基盤研究 (B) 一般研究 「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」(2014 年 4 月～2018 年 3 月)</p>	<p>2016 年 1 月～3 月には最初のヨーロッパ現地調査として、ハーグのマウリッツハイス美術館、アムステルダム国立美術館とミュンヘンのアルテ・ピナコテーク及び芸術資料館の調査を行った。ここでの調査結果をもとに、日本ヘーゲル学会第 24 回大会においてシンポジウム「ヘーゲルの絵画論：ヘーゲルは何を見て、何を考えたか？ーヘーゲル美学講義に結実した芸術体験をめぐって」を開催した。</p>	<p>(1)科研費基盤研究(B)『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』のためのヨーロッパ現地調査(オランダ・ドイツ、2 月 17 日ー2 月 25 日)</p> <p>(2)科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第一回調査旅行の成果検討会 平成 28 年 3 月 10 日(跡見学園女子大学文京校舎)</p> <p>(3)論文:「ヘーゲルの『美学講義(1820/21)』における人相学と頭蓋論をめぐる諸問題」(単著)平成 28 年 3 月 30 日 『国際地域研究論集』第 7 号(新潟県立大学内、国際地域研究学会誌)</p>

		<p>p.1 – 12</p> <p>(4)18 世紀末のルーヴルとベルヴェデーレにおける歴史的展示の展開についての簡便な報告 (Tempel der Kunst Die Geburt des öffentlichen Museums in Deutschland 1701:- 1815 (hrsg. von B. Savoy) Böhlau Verlag Köln Weimar Wien (2015) S.96 – 116. Wien 1780 – Paris 1793 Welches der beiden Museen war wohl das revoltionärste? Edouard Pommier) 平成 28 年 6 月 11 日 科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第八回研究会(跡見学園女子大学文京校舎)</p> <p>(5)1783 年のウィーン・ベルヴェデーレ宮絵画館の展示作品と展示方法について 平成 28 年 9 月 24 日 科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第九回研究会(法政大学市ヶ谷校舎)</p> <p>(6)日本ヘーゲル学会第 24 回大会シンポジウム「ヘーゲルの絵画論:ヘーゲルは何を見て、何を考えたか? —ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験をめぐって」。報告:石川伊織「ヘーゲルの絵画論:ヘーゲルは何を見て、何を考えたか?」・柴田隆行(東洋大学教授)「ヘーゲルの絵画論と作品鑑賞可能性について」・村田宏(跡見学園女子大学教授)「ヘーゲルのルーヴ</p>
--	--	--

		ル美術館体験を考えるために」、司会:佐藤康 邦(放送大学教授) 平成 28 年 12 月 10 日 明 治大学駿河台校舎にて開催
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>・地域史・地域文化</p>	<p>・日韓古代文化交流史を調査見学するため韓国南部訪問、2016.02.22-17。</p> <p>・NPO 事務所所在地である上越市仲町 6 丁目の地域史をまとめる。</p> <p>・上越地方における、いわゆる「真言潰し」の跡を確認するため上越市柿崎区平沢・光宗寺五輪塔群見学・調査、2016.11.12。</p>	<p>[著作・論文]</p> <p>・大工職人の雁木通り史、NPO 法人頸城野郷土資料室、2016.04</p> <p>・岡倉天心「アジアは一なり」のパトリ的な意味、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.1/No.2、2016.04</p> <p>・関山神社金銅仏は仏教美術様式からみて百済仏、頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.1/No.2、2016.04</p> <p>・澁澤敬三の和瀬田喜八宛て書簡（1935 年 2 月 27 日付）頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、Vol.1/No.6、2016.05</p> <p>・人間精神のダイナミズムとしての石仏虐待儀礼、日本の石仏、第 158 号、2016.07</p> <p>[講演・報告]</p> <p>・相馬御風思想における還元（糸魚川帰住）の意味、相馬御風糸魚川帰住百年記念講演会（糸魚川市教育委員会主催）、2016.11.20</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域史・地域文化 ・ 大学テキスト編集 ・ 学術研究 	<p>埼玉県富士見市・ふじみ野市石仏見学・調査、2016.04.09</p> <p>・ 着手して 45 年ほどになるドイツ手工業職人ヴァイトリングに関する社会思想史的研究をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語表現力—アカデミック・ライティングのための基礎トレーニング（編著）、朝倉書店、2016.03 ・ 革命職人ヴァイトリング—コミュニオンからアソシエーションへー、社会評論社、2016.10
---	---	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤 太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびき文化を含む「裏日本」文化関連の研究</p>	<p>「裏日本」に多く見られる巨木柱列址・環状列石、出雲の黄泉比良坂、スサノオノミコトにまつわる神話(高天原での乱暴、八岐大蛇退治等)に関する研究を、文献中心に行ってきた。研究内容をわかりやすく整理し、くびき野カレッジなどで発表を行った。その結果、今後の研究につながるご意見を会場から多数いただいた。</p> <p>『ログスドン』で月一回連載している「裏日本」文化論は、60回終了後、ヌース出版より出版予定(2016年12月現在、第21回まで終了)。</p>	<p>〔口頭発表〕</p> <ul style="list-style-type: none">・市民公開講座：くびき野カレッジ天地人第12期講座「裏日本」文化⑦—十一面観音—(8月13日)、第13期講座「裏日本」文化⑧—十一面観音信仰からヤマタノオロチ伝説へ—(12月10日) <p>〔論文発表〕</p> <ul style="list-style-type: none">・web連載(月刊)：雑誌『ログスドン』「裏日本」文化、第13回(2016年4月)～第21回(2016年12月)。http://www.nu-su.com/seimei.html 第13回：巨木柱列址②、第14回：環状列石①、第15回：環状列石②、第16回：自然信仰から神話へ、第17回：天之御中主神、第18回：黄泉比良坂①、第19回：黄泉比良坂②、第20回：スサノオノミコト①、第21回：スサノオノミコト②

【くびき文化に関係しない研究】

仏教、文化人類学関連の研究

龍谷大学世界仏教文化研究センターで、南方熊楠の思想と仏教に関する研究を、文献中心に行ってきた。

特に、熊楠の思想のコアである「南方マンダラ」と、華嚴思想との接点を探ってきた。より具体的には、「南方マンダラ」における「心不思議」「物不思議」「理不思議」「大不思議」という要素と、華嚴思想における「理法界」「事法界」「理事無礙法界」「事事無礙法界」との類似性を指摘し、熊楠がどのように華嚴思想を理解し、自身の思想へ組み込んでいったのかを研究してきた。

〔口頭発表〕

- ・龍谷大学 REC コミュニティカレッジ 「聖地をめぐって—説話・密教・夢—」(6月8日)、
「仏教人間学—無明を照らす道—」(11月2日)
- ・第49回身心変容技法研究会発表 「南方熊楠の心霊研究と身心変容体験—那智隠栖期を中心に—」(6月13日)
- ・京都大学人文科学研究所「環世界の人文学」例会発表 「南方熊楠の視座—夢・粘菌・華嚴—」(6月20日)
- ・龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会 「南方熊楠とは何者か？」(10月20日)
- ・青山ブックセンター本店企画 講師 南方熊楠 もうすぐ生誕150年 「偉人？巨人？超人？南方熊楠はどのように語られてきたか—〈本のタイトル・帯・紹介文—〉から迫る熊楠の「枕詞」と時代が求めた熊楠像—」(10月29日)
- ・WIRED、IN SEARCH OF JAPANESE DESIGN 「日本のデザイン」勉強会 講師 「領域横断する知性あるいは浸透する場」(11月9日)
- ・京都造形芸術大学大学院 (比較)芸術文化論特論 「南方熊楠の人生と思想—夢とマンダラと芸術—」(12月19日)
- ・龍谷大学世界仏教文化研究センター学術講演

		<p>会 「華嚴の世界—『華嚴経』と南方マンダラー—」コーディネーター、講演、鼎談者(2017年1月22日)予定</p> <p>〔論文発表〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聖地を去るとのこと—南方熊楠をめぐって」(成文堂『祈りと再生のコスモロジー』、pp.159-177、10月1日) ・「南方熊楠が立っていた場所—〈夢〉という「通路(パサージュ)」—」(勉誠出版、『夢と表象』、2016年度内発刊予定、11月10日脱稿) ・「南方熊楠の心霊研究と身心変容体験—那智隠栖期を中心に—」(上智大学『身心変容技法研究』第6号、2017年3月刊行予定、12月15日脱稿) ・「浸透する場あるいは〈中間〉の視座—動物・幼児・妙好人—」(東洋大学『エコ・フィロソフィ研究』Vol.11、2017年1月刊行予定、12月22日脱稿) ・「虚空と風—南方熊楠の場所をめぐって—」(行人社、『哲学—最後の戦場』〔仮題〕、2017年3月刊行予定、11月30日脱稿) <p>〔書評〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Experimental Buddhism: Innovation and Activism in Contemporary Japan</i>, by John K. Nelson (龍谷大学世界仏教文化研究センター <i>Journal of</i>
--	--	--

		<p><i>World Buddhist Cultures</i> 創刊準備号、pp.93-95、 11月30日) ・『熊楠の星の時間』中沢新一(南方熊楠顕彰会 『熊楠研究』11号、2017年3月刊行予定)</p>
--	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク 秩父在住のアーティスト笹久保伸氏への聞き取り調査	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>くびきの文化関連</p> <p>・直江津プロジェクト関係</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）</p> <p>・平成 28 年第一回会合（2016 年 2 月 29 日）：『日本海沿いの町 直江津往還』の東京新潟県人会館における展示の契約更新手続きと新年度の活動方針に関する打ち合わせ。</p> <p>・平成 28 年第二回会合（12 月 17 日）：くびき野カレッジ－天地びと－での発表についての報告</p> <p>2) くびき野カレッジ（現地調査）</p> <p>・加賀街道調査（4 月 9・10 日）：五智国分寺－加賀街道松並木、国道 8 号（名立－能生）、北陸線（能生－糸魚川）</p> <p>・松之山街道調査（8 月 25-26 日）：松代－十日町－六日町－湯沢－三俣－三国峠－石打塩沢－松之山温泉－安塚－直峰城－浦川原－直江津－高田－上越妙高</p> <p>・松之山街道調査（10 月 8・9 日）：十日町情報館（資料収集）、高田稲田口－戸野目－川浦代官所－上真砂－三田</p>	<p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 5 講 直江津往還補説 3－高田直江津往来：加賀街道と参勤交代」（6 月 11 日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第 6 講 直江津往還補説 4－高田直江津関東往来：松之山街道・上杉軍道－」（11 月 26 日）</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>歴史学関連</p> <p>・ロシア、ソ連史関係</p>	<p>・近現代史研究会開催</p> <p>・津田塾大学国際関係研究所にて資料収集</p>	

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 渋沢敬三撮影フィルムに関する考察</p> <p>越後国高田藩高田寺町に関する研究</p> <p>書籍紹介</p>	<p>渋沢敬三により昭和 10 年に撮影された映像記録 (16 ミリフィルム) の検討と考察 (前年度より継続研究)</p> <p>高田寺町に関する近世資料の収集 寺町の性格に関する一般的論考の収集</p> <p>郷堀ヨゼフ著『生者と死者を結ぶネットワーク』の紹介</p>	<p>『『谷浜』『桑取谷』 宮本瑞夫ほか編『渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った 1930 年代の日本・アジア 甦る民俗映像』2016 年 3 月 30 日 岩波書店</p> <p>「近世城下町における寺町と寺院 越後国高田寺町の場合 (研究論文)」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Vol.1/No.1 2016 年 4 月 1 日</p> <p>「新刊書籍紹介 (郷堀ヨゼフ氏著『生者と死者をむすぶネットワーク』)」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』Forum3 2016 年 6 月 8 日</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 宮座概念に関する理論的検討</p>	<p>宮座・氏子組織の実態と概念の齟齬をめぐる考察</p>	<p>『『宮座』とは何か 『定義』方法をめぐる問題として (ディスカッションペーパー)』『頸城</p>

<p>「巨木」の考察</p>	<p>「巨木」の生態学的位置づけ、および「巨木」言説をめぐ る検討</p>	<p>野郷土資料室学術研究部研究紀要』 Vol.1/No.3 2016年4月1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『巨木』の話から『無用の用』まで『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 Forum5 2016年7月8日 ・2016年10月22日くびき野カレッジにて講義
<p>焼津小川地蔵の研究</p>	<p>静岡県焼津市に所在する小川地蔵に関する資料収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「焼津小川地蔵をめぐって」『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 Forum6 2016年11月3日 ・2016年11月12日くびき野カレッジにて講義
<p>文部科学省科学研究費研究プロジェクトに参加</p>	<p>文部科学省科学研究費補助金による研究プロジェクト「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」（基盤C JP16K03229 研究代表者：石本敏也聖徳大学准教授。3ヶ年を予定）に研究協力者として参加。なお真野は、四国遍路巡拝記に関する研究を計画している。</p>	<p>2016年11月6日ミーティング実施</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧 (平成 27 年 12 月 23 日～平成 28 年 12 月 31 日)

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p>	<p>1) 直江津プロジェクト（東京）・平成 28 年第一回会合（2016 年 2 月 29 日） <概要> 直江津プロジェクトの研究成果である『日本海沿いの町直江津往還』（2013 年 11 月、社会評論社）の（一般財団法人）東京新潟県人会館における展示の契約更新手続き、及び新年度の活動方針に関する打ち合わせを、首都圏在住のメンバーである古賀治幸氏、長谷川和子氏と共に行う。</p> <p>2) 【取材協力、情報提供】KEIO Report 「慶應義塾高校野球部のあけぼのー「甲子園」優勝 100 年を迎えて」（慶應義塾 『三田評論』1203 号、104-105 頁、2016 年 8 月 1 日） <概要> 慶應普通部が 1916（大正 5）年の第 2 回全国中等学校優勝野球大会で優勝した時のメンバーの一人で、エドウィン・ダンの三男であるジョン・ダンについて、情報提供及び取材協力を行う。</p>	<p>【講演（単独発表）】</p> <p>1) 「エドウィン・ダンとジェームス・ダンが直江津にもたらした“近代”」 真駒内牧牛場開設 140 周年記念講演会、於札幌市「エドウィン・ダン記念館」 2016 年 9 月 10 日 主催：エドウィン・ダン記念館（協力：エドウィン・ダンの会、後援：北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会） <本講演の新聞記事>2016 年 9 月 27 日「北海道新聞」[札幌圏]（第 26540 号）28 面、「酪農の父ダン 石油開発にも力—真駒内の「牧牛場」開設 140 年 記念館で功績学ぶ講演」。</p>

	<p>3) 直江津プロジェクト（東京）・平成 28 年第二回会合 （2016 年 12 月 17 日）</p> <p><概要></p> <p>首都圏在住メンバーの一年間の活動報告を行う。</p> <p>場所：日本大学商学部 310 研究室</p> <p>時間：15：00～19：00</p> <p>出席者：古賀治幸、長谷川和子、瀧田 寧、杉山精一 （報告内容は、各メンバーの概要報告を参照して下さい。）</p>	<p>【エッセイ（単著）】</p> <p>1) 「エドウィン・ダン（1848-1931）について」 （社会評論社目録準備室、社会評論社公式ブログ http://shahyo.sakura.ne.jp/wp/2016/10/11/ 〈エドウィン・ダンについて〉に掲載、2016 年 10 月 11 日）</p> <p>2) 「転勤族に故郷はあるか」 日本大学商学部図書委員会編『^{きめた}碓通信』45 号 （日本大学商学部発行、2016 年 12 月 1 日）、 25-29 頁。</p> <p>【頸城野郷土資料室「会員通信」(サイボウズ)】</p> <p>1) (2 月 15 日) 山椒大夫 2) (8 月 1 日) 真駒内牧牛場 140 周年記念講演 3) (9 月 13 日) ダン講演会終了のお知らせ 4) (10 月 2 日) 北海道新聞に掲載されました 5) (10 月 11 日) 社会評論社のブログ紹介</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p>		<p>〔論文〕</p> <p>「ポパーとパスカル —人間の無知の強調をめぐって—」</p> <p>『批判的合理主義研究』（日本ポパー哲学研究会事務局機関紙編集部編）第 7 卷 2 号（通巻 14 号）、2-15 頁、2015 年 12 月</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 中島 浩貴

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 地域と軍隊——軍都の比較研究	新潟高田と北海道旭川の都市形成に関する軍隊の役割を比較検討し、日本の社会における軍隊と都市の関係性について共通性と差異を導き出すことを意図した研究を行っている。本年は旭川における軍隊と都市の問題を調査した。	平成 28 年度はなし。
【くびき文化に関係しない研究】 一般兵役義務言説の展開とその変容	19 世紀から 20 世紀の近代社会の形成において重要な、社会の軍事化という文脈で、一般兵役義務制度が社会のなかでどのように議論されていたのかを検討した。近代ヨーロッパにおける戦争の転換、国民国家と戦争、近代以降の戦争方法の転換、国民と戦争の接近といった問題について検討をおこなうなかで、社会全体に影響力を強める言説がどのように形成されていったかについて言及した。また、プロイセン・ドイツの軍事思想家カール・フォン・クラウゼヴィッツに戦争観を前提とした複合的な新しい戦争研究を継続している。	日本クラウゼヴィッツ学会定例研究会、学会シンポジウムにおいて報告。

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 長谷川 和子

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県人会館『直江津往還』展示依頼に関する打ち合わせ（2月） ・直江津プロジェクト活動協力の依頼、広報活動及び『直江津往還』寄贈 <ul style="list-style-type: none"> ① 6月 保倉中学校同級会にて（野沢温泉） ② 9月 高田高校卒業 50 周年記念同窓会（高田） ・小川未明文学賞 25 周年記念フォーラム（10 月、早稲田大学）参加 ・直江津プロジェクトメンバーの発表状況の報告を聞く（12 月） <ul style="list-style-type: none"> 古賀先生：カレッジの報告内容のレビュー 瀧田先生：札幌での講演会の報告 ・古文書入門講座（NHK カルチャーセンター）受講（4～9 月） 	<p>特になし</p> <p>・早稲田大学フォーラム開催時提出したアンケートに、直江津プロジェクトの活動と『直江津往還』の紹介を行った。特に『赤いろうそくと人魚』のフラメンコダンスによる舞台芸術が素晴らしかったため。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史講座受講（11&12月） 本牧コミュニティハウス主催 	
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>グローバル時代の人材育成（特に英語）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・20代から仕事で使っていた英語実務体験談が中心の講義を行う（1月、12月） ・日本の伝統文化を英語で海外に発信するための基礎知識を学ぶ。 ・米連邦最高裁判所初の女性判事、S.オコーナー氏の自伝“Majesty of Law”（原書）の解説（併せて米国の裁判制度基礎知識の確認）。 	<p>流通経済大学経済学部客員講師 「グローバルビジネス英語」担当</p> <p>可能であれば、紀要に研究ノートとして掲載したい（女性の生き方のモデルの一つとして紹介するため）。</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 〔小川未明研究〕</p>	<p>平成 27 年度の研究テーマを継続して深化させている。前著『赤い蠟燭と人魚』の背景を訪ねて(『日本海沿いの町 直江津往還』社会評論社、平成 25 年所収)では、未明の代表作「赤い蠟燭と人魚」の誕生は幼少期の経験にこそあるとみて光をあてた。このような問題意識を引き継ぎ、旧来、研究史においてはあまり言及がなされていないラフカディオハーンの未明への影響を探求している。もとより本研究はそれがくびき文化や地域性とどのような接合をもつのが主眼であるが、それがまた〈感性学〉の文脈におきなおされるとき、如何なる視界が開かれるのかを含め検討している。</p>	
<p>【くびき文化に関係しない研究】 〔現代社会とケア——〈身〉のゆくえ〕</p>	<p>平成 28 年 7 月 26 日、神奈川県相模原市津久井やまゆり園で、入所していた障害をもつ 19 名の方々がその尊い命を失うという痛ましい事件が起きた。果たして障害者が障害者を殺傷した事件として片づけてよいのか。また措置入院のあり方や施設の防犯体制の見直しで幕引きにしてよいのか。このような問題意識から、〈身体〉と〈優生〉という視点から事件のもつ多様な性格を研究している(なお、右の①での発言の一部は『東京新聞』2017 年 1 月 3 日に掲載)。</p>	<p>①「サガミハラがなげかけるもの——『何が違うのか』ではなく『何か違うのか』と問うことの意味」(第 17 回哲学カフェ横浜、平成 28 年 12 月 12 日、哲学カフェ横浜:金井淑子研究室)</p> <p>②「フクシマとサガミハラが重なる〈場〉——『選ばないことを選ぶこと』の危機に抗して」(総合人間学会第 18 回若手委員会、平成 28 年 12 月 24 日、御茶の水女子大学)</p>

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <p>・地域に根差した NPO の活動からみる 「居場所」としての役割について</p>	<p>・上越市 NPO ボランティアセンター・主催 平成 28 年 5 月 28 日 「くびき野地域市民活動交流会」への参加</p>	<p>・山田彩加 2016 「くびき野地域市民活動交流会 参加報告 及び 雑感」 (『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 「フォーラム」)</p> <p>・くびきのカレッジ天地びと 第 13 期カリキュラム 平成 29 年 1 月 28 日 第 10 講 にて口頭発表 「NPO という居場所」(仮題)</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白拍子 遊女（しらびょうし ゆめ） 名義での表現活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の詩の朗読 ・外国語の詩の和訳と朗読 ・歌唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・くびきのカレッジ天地びと 第12期カリキュラム 平成28年5月28日 第4講 にて口頭発表 「外国語の詩の和訳と朗読 アウトプットとしてのパフォーマンス」 ・アートコンプレックスの会・主催 平成28年4月17日「さくらいぶ」 平成28年7月2日 「がんばれくまモン・レルヒさんもね」 平成28年10月23日「酒祭り うた祭り」出演
--	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
平成 28 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山本 希一

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関するしない研究】 歴史地理学関係	東京都大田区域の地名研究	「江戸・東京消失地名録 地形地名編 大田区」(季刊 Collegio 2016 秋・冬合併号/通巻 63 号(2017.1)以下に連載中)
倫理道德関係	公平・公正について	「サバイバル・ロッタリー (生存籤) を素材に公正さについて考える」(つばき 2016 Summer (2016.8))